

いきがい・助け合いサミット in 大阪

共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～

ここに来れば助け合いで生活を支えるやり方がすべてわかる
ここに来れば地域づくりの情報が盛りだくさん
ここに来れば参加者同士がつながれる
みんなで、知恵と元気を持って帰ろう！

開催
日時

2019年 9月 9日(月) 13:00～17:50 (18:30～大交流会)
10日(火) 9:00～15:50

会場

大阪府立国際会議場 (グランキューブ大阪)
大阪市北区中之島5丁目3-51

ぜひ、
皆様のお越しを
お待ちしております！

主な内容

■ 全体シンポジウム

「共生社会をつくる地域包括ケア～生活を支え合う仕組みと実践～」

登壇者



原 勝則氏



宮本 太郎氏



袖井 孝子氏



蒲原 基道氏



堀田 力

進行役

■ テーマ分科会(3つの時間帯に分けて実施 ※具体的なテーマは裏面ご参照)

● 全体発表 ● 大交流会 ● ポスターセッション(全国の事例展示)

対象

どなたでもご参加できます(事前申し込みをお願い致します)

参加費

資料代として2,000円(10日の昼食をお申し込みの場合、別途1,000円)
大交流会は、別途参加費として3,000円

後援(予定)

厚生労働省 大阪府 大阪市 全国社会福祉協議会 日本生活協同組合連合会
全国老人クラブ連合会 Jリーグ ほか

詳細は、今後当財団ホームページや情報誌等で順次ご案内いたします。
参加の募集開始は2019年5月以降になります。参加希望の方は裏面下をご覧ください。

主催 公益財団法人さわやか福祉財団 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階
お問い合わせ 事務局 内田、坂口 Tel (03)5470-7751 <https://www.sawayakazaidan.or.jp/>

幅広いテーマ分科会を開催します！

各分野を代表する素晴らしいパネリストの皆様が続々決定
地域の事例が盛りだくさん どうぞこの機会をお見逃しなく

■ 第1部パネル

9日(月) 15:30～17:50

- 1 生活支援を助け合い活動で行うには、具体的にどうすればよいか
- 2 市区町村における庁内体制はどうあるべきか
- 3 住民から信頼される体制をどうつくるか ～生活支援コーディネーターと協議体構成員の人選、2層圏域の設定・事務局体制など～
- 4 生活支援コーディネーターと協議体はどう役割を果たすか ～生活支援コーディネーターと行政との連携、1層と2層の連携など～
- 5 目指す地域像の意義と取り組み方
- 6 助け合いのネットワークをつくるにあたり、既存の助け合い活動を生かすにはどうすればよいか
- 7 地縁の助け合い活動を活性化するには？
- 8 共生型常設型居場所をどう広げるか
- 9 有償（謝礼付き）ボランティア活動をどう広げるか
- 10 自動車による移動支援をどう広げるか
- 11 行政や生活支援コーディネーター、協議体などによる後方支援、特に補助をどのようにすればよいか
- 12 人生100年時代、介護問題を女性の目で見る
- 13 要介護者の生活支援を助け合いで行うことができるか
- 14 医療・介護サービスと生活支援の助け合い活動とのネットワークをどうつくるか
- 15 ケアプランに生活支援の助け合い活動及び本人のいきがい活動をどう取り入れるか
- 16 いわゆる重度者に対する24時間在宅ケアサービスをどう組み立てるか

■ 第2部パネル

10日(火) 9:00～11:00

- 17 助け合いによる生活支援活動に対する寄付・遺贈などの意義と仕組みは何か

- 18 子どもと高齢者の交流や助け合いをどう広げるか
- 19 小・中学校における共生教育、特に助け合いによる生活支援の理解をうながす人間教育をどう行うのが望まれるか
- 20 障がい者が地域の人々とともに生きる地域をどうつくるか
- 21 認知症の人が地域の人々とともに生きる地域をどうつくるか
- 22 生活困窮の人が地域の人々とともに生きる地域をどうつくるか
- 23 刑余者などの人が地域の人々とともに生きる地域をどうつくるか
- 24 市民後見人による後見活動と生活支援活動はどう連携するのが望ましいか
- 25 企業OBに助け合いによる生活支援活動への参加をうながすにはどうすればよいか
- 26 助け合い活動にプロボノとしてどう参加するか
- 27 我が事・丸ごとや小規模多機能自治などの地域づくり活動と生活支援活動とをどう結び付けるか
- 28 介護におけるエンパワーメントと自立支援のあり方は何か
- 29 認定介護福祉士が地域の連携強化に果たす役割
- 30 「民間の公益」（助け合い活動）と「行政の公益」（生活支援サービス）の関係を考える

■ 第3部パネル

10日(火) 12:30～14:30

- 31 都道府県は助け合いによる生活支援活動を広めるために何をすべきか
- 32 人口が少ない自治体における助け合いによる生活支援に関する課題と対応策は何か
- 33 協議体は地域ケア会議その他の類似機関と兼ねることができるか
- 34 社会福祉協議会の総合事業・体制整備事業における役割は何か
- 35 地域包括支援センターは総合事業・体制整備事業にどこまで関わるのが望ましいか

- 36 生活支援コーディネーターやその関係者の人事はどうあるのが望ましいか
- 37 工程表のつくり方 ～目指す地域像を実現するためのステップはどのように考えたらよいか～
- 38 町内会レベルのワークショップの手法は何か
- 39 アンケートと訪問調査を有効に行い、活用する方法は何か
- 40 担い手養成講座の成果を生かす方法は何か
- 41 地域で行われている助け合い活動をどう再発見するか
- 42 防災活動をどう助け合い活動に結び付けるか ～助け合いマップの活用など～
- 43 特に大都市部において地域により助け合い活動創出の可能性や手法に大きな差異がある場合に、助け合い創出の戦略をどう立てるか
- 44 地域の中老年男性をどう助け合い活動に引き込むか
- 45 住民のやらされ感を払しょくするコツと手法は何か
- 46 居場所にはどんな形があり得るか
- 47 現場視察を有効に行うには、どんな工夫をすればよいか
- 48 社会福祉法人はどのように社会貢献を行うか
- 49 時間預託をどう広めるか ～NALCの実践から～
- 50 助け合い活動でどこまで家事支援や身体介助ができるか
- 51 海外では地域の助け合い活動でどれだけ高齢者の生活を支えているか
- 52 在宅における介護人材の確保をどうするか ～本人の尊厳・いきがいを含めて生活を支える人材の確保～
- 53 医師・看護師などの専門家にいきがいや助け合いの重要性をどう理解してもらうか
- 54 在宅での人生の最終章の過ごし方及び看取りのあり方 ～医療関係者の関わり方、親族のあるべき態度、助け合い活動者の関わり方など～

●いずれも現時点の予定。変更になる場合があります。

【送り先】 FAX (03) 5470-7755 E-mail : summit@sawayakazaidan.or.jp

「いきがい・助け合いサミット in 大阪」に参加希望の方は下記の必要事項を明記のうえ、さわやか福祉財団まで FAX かメールでご連絡ください。参加申込書が出来上がりましたらお送りします（5月上旬頃予定）。

万一、5月中に届かなかった場合は、誠に恐れ入りますが、表面下のお問い合わせ先までご連絡ください。

ふりがな お名前				団体名等			
ご住所	〒						
連絡先電話番号				参加予定人数	名	参加申込書希望部数	部
紹介者							